

城北病院が生まれ変わります!

★2015年12月建設工事着工～3年半の工期を予定★

1949年無差別平等の理念を掲げ、地域住民の皆様の出資により当院の前身である「しろがね診療所」は開所いたしました。1956年には現在の京町に城北診療所を開所し1962年に病院化致しました。その後65年に渡り常に地域の要求に応える活動を重視してまいりましたが、本館南棟は築46年、西棟は築34年が経過して老朽化が顕著となり、患者様の療養環境や職員の労働環境の改善と、災害時の医療機能維持のための耐震化は待った無しの課

題と判断し、「新病院」建設を行うことと致しました。2012年春より論議を開始し、2015年12月いよいよ着工の運びとなりました。移転新築せず現在地にて建設工事を進めますので、診療を継続しながら約3年半、4期に分けて工事を行います。当院ホームページでもご紹介しておりますので、ご参照頂ければ幸いです。

皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。



TOPICS

- ★在宅療養後方支援病院としての届出をしました。
- ★回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定施設としての届出をしました。

ぜひご利用ください!

私たちがめざすもの 医療福祉宣言

城北病院 城北診療所 2014

- 1 患者様の立場に立つことを大切にします。
- 2 患者様への情報提供と合意づくりに努めます。
- 3 安全安心の医療・福祉の提供に努めます。
- 4 安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 5 人権を守り無差別平等の医療・福祉を目指します

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
http://jouhoku-hosp.com E-mail renkeisitu@jouhoku.jp



城北病院医療福祉連携相談室だより

JO-HOKU No. 39

2015.9.1 summer

「笑って死ねる病院」とヘルスプロモーション



城北病院 副院長・城北診療所 所長 昉也寸志

城北病院は、今年1月15日に、ヘルスプロモーションホスピタル（健康増進活動拠点病院）の世界ネットワークに加盟しました。2015年7月現在ヘルスプロモーションホスピタルのネットワークに、世界40か国、700以上の保健サービス機関が参加しています。日本では19番目の加盟です。

「ヘルスプロモーション」は、地域住民や患者さんが「健康」を資源として自己実現をめざす過程を保健サービスの専門家である私たちが支援する活動と位置付けることができます。

WHO（世界保健機関）は、「健康とは身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であり、単に、病気あるいは虚弱でないことではない」と定義しています。しかし、人間は誰でも年齢とともに何らかの慢性疾患に罹患し、身体機能が次第に低下していきます。なんらかの病気を持ちながらも、患者さんが自己実現をめざしていく過程を支援する活動は、医療機関による「ヘルスプロモーション」の大切な活動のひとつです。

「笑って死ねる病院」が今年7月に再刊されましたが、この本の中で紹介されている活動は、城北病院の「ヘルスプロモーション」活動の原点と言えます。

「ヘルスプロモーション」は、従来、保健所や自治体の活動だと考えられてきました。しかし、今や、医師、看護師、保健師、薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフなど保健サービスの専門家の大集団となった医療機関こそが、地域のヘルスプロモーションを積極的に担っていくことが求められるようになってきました。すなわち、病院の中だけでなく、病院の外へ視野を広げた活動が求められています。「保健サービスの方向転換」です。

地域の皆様と職員がいっしょに取り組む「健康チャレンジ」活動や青空健康チェックなど、ヘルスプロモーションホスピタルとして、地域へ視野を広げた活動をさらに進めていきたいと考えています。



テレビ金沢著
(株)ワニブックス発行



小児科部長
武石 大輔

一般診療から予防接種・乳幼児健診まで、
かかりやすさを追求して夜間外来も行っています。

城北診療所の小児科では、風邪や胃腸炎などの一般小児科としての診療を中心に、予防接種・乳幼児健診を行っています。予防接種は BCG 以外は予約なしで、いつでも接種できます。乳幼児健診は、平日の午前中であれば、こちらも予約なしで受け付けています。医師は、常勤医師 3 名、嘱託医師 1 名、パート医師 1 名の計 5 名で交替で外来診療を行っています。午前中は 9 時から 12 時の受付ですが、午後・夜間は最近多い、共働きやシングルマザーのご家庭でも受診しやすいように、16 時から 18 時半までの受付時間となっています。夜間・休日は、標準的な小児科初期研修を受けた内科・外科の医師が、受診されたお子様の初療を行い、必

小児科の取り組み

城北病院・診療所小児科の紹介

小児科の医師たち



河野 晃 松本 一郎 三上真理子 飯村 雄次

要と判断されれば、オンコールの小児科医が呼び出されるといった体制をとっています。

入院が必要な病状と判断されれば、併設の城北病院に入院していただくこととなります。集中治療が必要なほどではないけれども、食欲が落ちていたり、ご家族の看病疲れがあって、数日間の入院が必要な場合などには、ご紹介いただければと思います。

アトピー性皮膚炎や気管支喘息など、
アレルギー診療に力を入れています。

さらに、当院はアレルギー診療に力を入れております。アトピー性皮膚炎の診療では、最新の学会の知見も参考に、スキンケアの重要性を時間をかけて丁寧に説明します。そして、軟膏の塗り方・量も具体的に示しながら、重症の場合は短いスパンで外来通院していただきながら、保護者の方と二人三脚で患児の湿疹のフォローをしていきます。

気管支喘息に関しては、基本的にはガイドラインに準拠しながら、まずはしっかりと症状をコントロール

し、その後タイミングを損なわず減量していき、寛解を目指します。小学校入学後あたりからは、フローボリュームや呼気 NO などの検査で客観的に評価もしています。

食物アレルギーの
経口食物負荷試験を行っています。

特に食物アレルギーには力を入れています。食物アレルギーの診断や、ある一定除去を続けた後に食べられるようになったかどうかの確認のためには、実際食べて反応をみる「経口食物負荷試験」が必要です。当院では血液検査の結果や、今まで原因食物を摂取したときに出現した症状の強さなどから判断して、リスクの低いお子さんは外来で、リスクが高いと考えられるお子さんは 1 泊入院で負荷試験を行っています。入院負荷試験を正式に始めてから 5 年が経過し、現在では年間 100 例以上の入院食物負荷試験を行っています。また、毎週、外来・入院担当の看護師、栄養士、医師合同でアレルギーに関するカンファレンスを行い、患者さんの状況の共有や、勉強会を行っています。負荷試験を受けるという目的でのご紹介も受け付けています。



『ももたろう倶楽部』の活動

また当院には、食物アレルギーがあるお子さんをもつお母さん方の会『ももたろう倶楽部』があります。交流を通してご自分たちの経験を、新しく食物アレルギーがあるとわかったお母さん方と共有しています。季節の行事として、除去食対応のお弁当を持参してのお花見会や、除去対応のケーキを試食するクリスマス会など、活発に活動しています。「ももたろう倶楽部」は、当院かかりつけではなくても参加できますので、ご相談いただければと思います。



泌尿器科
折戸 松男 医師

城北診療所 [泌尿器科] 外来を拡充しました

この度、城北病院泌尿器科に常勤で勤務することになりました折戸です。排尿困難、頻尿、血尿、尿失禁などについて気軽に相談いただければと考えます。一人医長としての勤務となりますので、すべてに対応することはできませんが、当院で対応できない場合は近隣の病院泌尿器科と連携して対応したいと考えます。よろしくご願ひ致します。

